

弘経寺だより

発行所

寿亀山弘経寺

〒303-0041

常総市豊岡町甲1

TEL0297-24-0895

十夜法要

十一月十八日(日)午後二時より本堂にて十夜法要を営みます。今年も十夜法要中百万遍数珠繰を行います。ご参列いただく方全員が輪になって大数珠を繰りながら、先祖代々のご回向をいたします。是非ご参列ください。

申込方法

- ① 当地区の世話人さんにお申込み下さい。
 - ② 同封の申込用紙に回向料を添えて現金書留にてお申込み下さい。
 - ③ 申込用紙を FAX (0297-24-4564) にてご返信いただき、同封の振込用紙にて回向料をお振込みください。
- ※申込用紙にてお申し込みの後、当日ご参列いただける方は、その際に回向料をお納めくださっても構いません。

十夜とは？

十月から十一月にかけて全国の浄土宗寺院でひろく行われる念仏会(ねんぶつえ)です。「お十夜」「十夜法要」「十夜講」「十夜念仏」などともいい、正しくは、「十日十夜(じゅうじゅう)法要」ともいいます。もとは陰暦の十月五日の夜から十五日の朝まで、十日十夜にわたる法会(ほうえ)でした。

この法会は、浄土宗で最も大切な經典(きょうてん)の一つ『無量寿經(むりょうじゅきょう)』の巻下に、「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間善行をすることよりも尊い」と説かれていることよって、その教えを実践したもので、十日十夜にわたり不断(ふだん)念仏を称えて別時(べつじ)の念仏を修し、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要であります。この法会が初めて営まれたのは、今から五五〇年ほど前(永亨(えい

きょう)年間)、伊勢守平貞経(いせのかみたいらのさだつね)の弟貞国(さだくに)が、京都の天台宗の真如堂(しんにょどう)で修したのがその始まりとされています。その後、明応(めいおう)四年(一四九五)に、現在浄土宗の大本山の一つになっている鎌倉光明寺の第八世観誓(くわんせい)祐宗上人(かんよゆうそうしようにん)が、後土御門(ごつちみかど)天皇に招かれ、宮中で、『阿弥陀經(あみだきょう)』の講義をされ、さらに真如堂の僧といっしょに引声(いんせい)念仏を修し、勅許(ちよつきよ)を得て、光明寺で法要を行うようになりました。これが浄土宗でのお十夜の始まりで、今では浄土宗の大切な法要となっています。

お十夜は、お念仏の尊さを知り、感謝の気持ちを込めてこれをお称えする大切な法会です。今日ではその期間も十日間から五日、三日、あるいは一日と短縮されて行われていますが、この大切な念仏会に参加し、仏の国での千年の善行にも勝る善行を、ぜひ積んでいただきたいものです。

彼岸コンサート



九月二十二日(土)、響流十方秋の彼岸コンサートが弘経寺本堂にて開催されました。今年に残念な

がら、彼岸花の開花時期が遅く、紅い花で彩られた境内での開催とはならなかったのですが、弘経寺本堂に集われた約七十名の聴衆は、ヴァイオリンとピアノの美しい音色に耳を傾けていらつしやいました。

被災地発信ソング

「未来への扉」完成発表会

東日本大震災の被災地から、今まで支援してくださった世界中のみなさんに向けて「ありがとう」の気持ちを音楽に乗せて伝えたい…そんな想いが込められた歌が完成しました。タイトルは「未来への扉」、作詞作曲は岩手県一関市出身でアーティストコレコーズ社長の金野貴明さんです。



指揮をする金野貴明さん（左）と一緒に歌ってくれた小中学生の皆さん

この歌の完成発表会が十月十四日（日）弘経寺にて開催されました。歌い手を募集しましたところ常総市内内外より約三十名の方々、「未来への扉」を歌うために集まってくさいました。歌い手以外にも沢山の皆さんがこの発表会に参加してください、最後は弘経寺に集った参加者全員での大合唱となりました。共に「未来への扉」を歌うことで、被災地と世界とのつながりを深め、東日本大震災や世界各地で起きている災害、紛争などが他人事ではないということ、共感した感動の発表会でした。



八木大僧正台下（前列中央）
友田別院住職（前列右から3番目）

増上寺八木大僧正台下御親教

十月十六日（火）大本山増上寺八木季生大僧正台下が当山へ御親教くださいました。檀信徒を代表して渡辺総代、石塚総代をはじめ世話人さんたちが参列し、大僧正台下の御言葉を拝聴しました。
また、この度の御親教には増上寺執事長友田達祐上人が当山住職として初めてご参拝くださり、伊沢教務部長、熊井内侍長、佐々木施設部長も台下、執事長と共に御随行くださいました。
大僧正台下、執事の諸上人と共に
お念仏をさせていただき、尊いお念仏の功德を頂戴したご親教でした。

清掃当番

十一月十一日（日）午前八時より清掃作業を行います。当番は大口、大口新田、大口河原新田、庄右衛門新田地区です。お十夜前の清掃作業ですので、境内、堂内共にきれいに
して、気持ちよく参拝者をお迎えしたく思っています。担当地区の皆様よろしくお願い申し上げます。

今月の言葉

諸行無常は今も昔も変わらぬこの世の真理。その無常転変の世の中で心穏やかに生きていくために仏教という宗教があるのなら、それは大震災に見舞われた日本にとっても必ず役に立つはず、またねばならないはず。そのためにも、科学と仏教の接点を明確にして、現代の人たちにとっても十分納得のいく宗教として、仏教の姿を説明することが必要です。佐々木閑アツダ真理の言葉より
佐々木閑：一九五六年、福井県に生まれる。京都大学工学部工業化学科、および文学部哲学科仏教学専攻卒業。米

国カリフォルニア大学バークレー校留学を経て、花園大学文学部国際禅学科教授。専門は仏教哲学、古代インド仏教学、仏教史。日本印度学仏教学会賞、鈴木学術財団特別賞受賞。

十一月の写経会

十一月二十四日（土）

1:45	受	付
2:00	法	話
2:20	写	経
2:50	お	念
3:10	懇	談

会費 一〇〇〇円（高校生以下は五〇〇円）
携行品 小筆（受付でも販売します）

お悔やみ

阿弥陀様の慈光の中、次の方々が極楽へ往生されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

- 一〇月 三日 横川富江殿 七七歳
- 一〇月一〇日 落合 林殿 八四歳
- 一〇月一七日 石塚 はな殿 九九歳
- 一〇月二二日 飯田 満殿 五八歳
- 一〇月二二日 中村みつい殿 九〇歳